

令和 5 年 6 月 11 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00707

研究課題名(和文) 自然と人間の相互関係史としての近世都市災害研究

研究課題名(英文) History of urban disasters in early modern period: the interaction between nature and humans

研究代表者

渡辺 浩一 (Watanabe, Koichi)

国文学研究資料館・研究部・教授

研究者番号：00201179

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,400,000円

研究成果の概要(和文)：2018年度はローマで、2022年度はアントワープで開催された欧州都市史会議European Association for Urban Historyにおいて、メイン・セッション「自然災害と都市 近世都市における地震・洪水・大火」、および「近世都市における災害意識」をそれぞれ主宰した。2019年度には、論文集『近世都市の常態と非常態』(勉誠出版)を刊行した。2021年度には英語論文集Dealing with Disasters: Environmental History of Early Modern Cities を国文学研究資料館情報リポジトリから公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の災害史研究に二つの新しい視点を提供することができた。ひとつは、常態から災害を見るという視角である。もうひとつには、自然と人間の相互関係という従来のいわば平板な方法から、実証を伴って入れ子的な相互浸透関係として把握するという方法への深化を果たしたことがある。これらの点は専門論文集の出版という形で学界に公表した。また、国際学会でセッションを主宰し研究成果を海外発信するとともに、発表を公募することにより世界各地の事例と比較した。英語論文集という形でも海外発信を行った。さらに、人間文化研究機構の協力により、東京都心で一般市民向けのシンポジウムを開催し、研究成果を社会に還元することができた。

研究成果の概要(英文)：In FY 2018 and FY 2022, we presided over the main sessions 'Natural disasters and cities - earthquakes, floods and large fires in early modern cities' and 'Perception of Disasters' at the European Association for Urban History Conference in Rome and Antwerp. In 2019, we published a collection of papers, 'Normal and Normal States of Early Modern Cities' (Bensei Publishers). In 2021, we published an English-language collection, 'Dealing with Disasters: Environmental History of Early Modern Cities' from the National Institute of Japanese Literature Information Repository.

研究分野：日本近世史

キーワード：災害 都市 人為的自然環境 内なる自然としての人間 常態 非常態

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

自然と人間の関係とは自然をめぐる人と人との関係であるという考え方が現在の環境史研究ではとられている。こうした従来の視角は、『シリーズ：日本列島の三万五千年 人と自然の環境史』全5巻（文一総合出版、2011年）、および根岸茂夫ほか編『近世の開発と環境』（思文閣出版、2010年）に端的に現れていた。

2. 研究の目的

しかし、人と人との関係に焦点を当てた場合、歴史を構成する主体から自然が排除されてしまう危険性がある。自然は単に人間が活動する舞台を提供しているだけなのであろうか。地球温暖化の影響がますますはっきりしてきた現在、自然の変化を、歴史を動かす諸要因のなかの重要な一つとして措定することが必要である。自然の変化が人間社会に影響を及ぼす明確な事象として災害を分析することにより、自然と人間の関係を再考することを目的とする。

3. 研究の方法

一つは異分野融合である。本研究は文献史学を中心としつつも考古学と歴史気候学の研究者の参加を仰ぎ、大地と大気の状態を、歴史を説明する要素として大きく導入した。考古学では豊富な発掘成果を縦横に用いながら江戸の地盤を概括的に把握する。歴史気候学では風水害を引き起こした台風コースの復元を行う。そうした成果を受けて、文献史学は被害状況を把握する。

もう一つは海外発信と国際比較である。日本史の知識が皆無である歴史研究者に研究成果を伝えることは研究成果の普遍化という論点が不可欠となるため、研究を高度化する機会となる。また国際比較により日本での災害史の特質をより鮮明に把握することができる。

4. 研究成果

< 図書 >

・共編著 渡辺浩一、マシュー・デービス編『近世都市の常態と非常態 人為的自然環境と災害』勉誠出版、2020年、232頁

・共編著 *Dealing with Disasters: Environmental History of Early Modern Cities (Edo, Istanbul, London, Pest, and Prague)*, National Institute of Japanese Literature, National Institutes for Humanities, 2021年、200頁、<http://id.nii.ac.jp/1283/00004173/>

< 口頭発表 >

・Main Session 7 'Natural disasters and the urban: earthquakes, floods and great fires in early modern cities: 1400-1800' European Association for Urban History 14th Conference 'Urban renewal and resilience: cities in comparative perspective', Roma Tre University, 30 August 2018. <https://bit.ly/2XMCfkJ>

・2019年度国際研究会「近世都市の災害と自然環境」、2020年1月12日、国文学研究資料館

・ Main Session 42 'Perception of Disasters in Early Modern Cities', 15th Conference of the European Association for Urban History', University of Antwerp, 1 September 2022. <https://onl.sc/KSyrSYN>

< 社会貢献 >

・ 第39回 人文機構シンポジウム「江戸時代の台風コース復元と都市災害 - 気候学・考古学・文献史学の協同 - 」, 2021年10月9日、コモレ四谷

https://www.nihu.jp/ja/publication/nihu_magazine/068

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 渡辺浩一	4. 巻 94
2. 論文標題 近世後期の江戸における火事見舞と施行	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文研紀要	6. 最初と最後の頁 117-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 堀地明	4. 巻 149
2. 論文標題 清代北京の官治消防と火災消火活動年表	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北九州市立大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 堀地明	4. 巻 47
2. 論文標題 清代紫禁城の消防組織	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 九州大学東洋史論集	6. 最初と最後の頁 31-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 岩淵令治	4. 巻 1
2. 論文標題 江戸城堀の浚渫について-1765年（明和2年）の岡山藩による堀浚を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近世都市の常態と非常態』、勉誠出版	6. 最初と最後の頁 93-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤井 一彰	4. 巻 20
2. 論文標題 イスタンブルの「イスラーム化」と「教会」のモスクへの転用：モスク転用の時期の分析を中心に（特集 中近世の東地中海世界における諸民族の混交）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヨーロッパ文化史研究	6. 最初と最後の頁 35-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅原未宇	4. 巻 1
2. 論文標題 一七世紀ロンドンにおける大寒波の影響と市民の対応	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近世都市の常態と非常態』、勉誠出版	6. 最初と最後の頁 155-176
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺浩一	4. 巻 216
2. 論文標題 江戸・東京の水害と首都圏水系	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人民の歴史学	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野淳平	4. 巻 91(4)
2. 論文標題 広島の日記天候記録による1779年以降の夏季気温の復元	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地理学評論. [Series A]	6. 最初と最後の頁 311-327
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀地明	4. 巻 149
2. 論文標題 清代北京の官治消防と火災消火活動年表	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北九州市立大学外国語学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 渡辺浩一
2. 発表標題 寛政期江戸における災害復興をめぐる都市政策と地域社会
3. 学会等名 Séance exceptionnelle du séminaire d'Annick Horiuchi (Université Paris Diderot). Conférence en japonais, sans traduction. (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koichi Watanabe
2. 発表標題 Disasters and the City
3. 学会等名 Lunch seminar organisé par le Centre de recherches sur le Japon en collaboration avec Le Groupe de recherche en histoire environnementale (Grhen) CRH (EHESS). (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡辺浩一
2. 発表標題 江戸時代の自然災害
3. 学会等名 Dans le cadre du séminaire Histoire du Japon moderne et contemporaine : permanences et ruptures (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡辺浩一
2. 発表標題 1742年江戸大水害と奥多摩渓谷
3. 学会等名 国際研究会 近世都市の災害と自然環境（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡辺浩一
2. 発表標題 江戸の連続複合災害 天明期（1780年代）と安政期（1850年代）
3. 学会等名 シンポジウム「歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた新たな研究分野の創成」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀地明
2. 発表標題 清代北京の消防組織
3. 学会等名 都市史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀地明
2. 発表標題 清代北京の民間消防組織
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所、「転換期中国における社会経済制度」共同研究班
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀地明
2. 発表標題 清代北京の紫禁城消防
3. 学会等名 九州史学会2019年大会 <東洋史部会>
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩淵令治
2. 発表標題 江戸における都市民の防火意識
3. 学会等名 国際研究会 近世都市の災害と自然環境（国際学会）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菅原未宇
2. 発表標題 聖職？ 労働者？ 専門職？ - 16、17世紀イングランドにおける学校教師の社会的地位 -
3. 学会等名 東海大学史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 澤井一彰
2. 発表標題 一五六三年におけるイスタンブル大洪水との比較の視点から
3. 学会等名 国際研究会 近世都市の災害と自然環境（国際学会）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀地明
2. 発表標題 清代北京の災害
3. 学会等名 国際研究会 近世都市の災害と自然環境 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koichi Watanabe, Hiroyuki Ishigami, Junpei Hirano
2. 発表標題 Typhoon damage in 1853 Edo: integrating archaeology, climatology and history
3. 学会等名 Session M07 - Natural Disasters and the Urban: Earthquakes, Floods and Great Fires in Early Modern Cities 1400-1800, European Association for Urban History 2018 Roma (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koichi Watanabe
2. 発表標題 Natural Disasters and Beliefs in Divine Punishment and Eschatology in Early Modern Japanese Metropolis
3. 学会等名 Natural disasters and the Apocalypse(1500 to Present), The Centre for the Critical Study of Apocalyptic and Millenarian Movements (CenSAMM) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiji Iwabuchi
2. 発表標題 Firefighting Awareness of Citizens in Edo: Analyzing Eighteenth-Century Textbooks on Firefighting
3. 学会等名 Session M07 - Natural Disasters and the Urban: Earthquakes, Floods and Great Fires in Early Modern Cities 1400-1800, European Association for Urban History 2018 Roma (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩淵令治
2. 発表標題 コメント「江戸城・江戸と水路」
3. 学会等名 江戸内湾研究会第3回ワークショップ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺浩一
2. 発表標題 江戸・東京の水害と首都圏水系
3. 学会等名 数理地理モデリングと人口データ解析による環境人文学の展開（京都大学数理解析研究所）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺浩一
2. 発表標題 1856年東日本台風による被害状況と江戸の社会対応
3. 学会等名 共同シンポジウム「水害対応の過去-現在-未来」（茨城大学地球変動適応科学研究機関（ICAS）、人間文化研究機構国文学研究資料館） （招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野 淳平
2. 発表標題 歴史天候記録から探る江戸時代後半の気候変動
3. 学会等名 共同シンポジウム「水害対応の過去-現在-未来」（茨城大学地球変動適応科学研究機関（ICAS）、人間文化研究機構国文学研究資料館）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野淳平
2. 発表標題 歴史天候記録による台風経路復元に向けた展望と課題
3. 学会等名 地理学会シンポジウム「台風経路と降水量の長期変動 歴史災害気候学に学ぶ 」
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 渡辺 浩一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 88
3. 書名 江戸水没	

1. 著者名 渡辺浩一、マシュー・デーヴィス	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 近世都市の常態と非常態	

1. 著者名 渡辺 浩一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 240
3. 書名 近世都市 江戸 の水害	

〔産業財産権〕

[その他]

Koichi Watanabe,
 State and Private Responses to the Complex Succession of Disasters in Edo during the 1780s 寛政期江戸における災害復興をめぐる都市政策と地域社会, Séance exceptionnelle du séminaire d' Annick Horiuchi (Université Paris Diderot). Conférence en japonais, sans traduction.Vendredi 19 avril, de 16h à 18h - Université Paris Diderot (salle 481C- Léon Vandermeersch, bât. Grands Moulins) – 5 Rue Thomas Mann, 75013 Paris
 Disasters and the City
 Lunch seminar organisé par le Centre de recherches sur le Japon en collaboration avec Le Groupe de recherche en histoire environnementale (Grhen) CRH (EHESS).
 Lundi 13 mai, de 12h30 à 14h30 - EHESS (salle 7-37) 54 boulevard Raspail, 75006 Paris
 Les catastrophes naturelles à l' époque d' Edo
 Dans le cadre du séminaire Histoire du Japon moderne et contemporaine : permanences et ruptures, Jeudi 16 mai, de 11h à 13h - EHESS (salle 6-51) – 54 boulevard Raspail, 75006 Paris
<https://www.ehess.fr/fr/personne/koichi-watanabe>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石神 裕之 (Ishigami Hiroyuki) (10458929)	京都芸術大学・芸術学部・教授 (34319)	
研究分担者	菅原 未宇 (Sugahara Miu) (10645310)	東海大学・文学部・准教授 (32644)	
研究分担者	堀地 明 (Horichi Akira) (70336949)	北九州市立大学・外国語学部・教授 (27101)	
研究分担者	澤井 一彰 (Sawai Kazuaki) (80635855)	関西大学・文学部・教授 (34416)	
研究分担者	岩淵 令治 (Iwabuchi Reiji) (90300681)	学習院女子大学・国際文化交流学部・教授 (32699)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平野 淳平 (Hirano Junpei) (80567503)	帝京大学・文学部・准教授 (32643)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 国際研究会「近世都市の災害と自然環境」	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Main Session 07-Natural Disasters and the Urban: Earthquakes, Floods and Great Fires in Early Modern Cities 1400-1800, European Association for Urban History 2018 Roma	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Main Session 42 'Perception of Disasters in Early Modern Cities', 15th Conference of the European Association for Urban History', University of Antwerp, 1 September 2022.	開催年 2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関